

## 海水浴での「フロート<sup>1</sup>使用中の事故」に気を付けましょう！

間もなく始まる子ども<sup>2</sup>の夏休み。夏休みに、海水浴に出かける方も多いのではないのでしょうか。

海水浴は楽しいものですが、海は、天気、風向、風速、潮位、潮の満ち引きなどにより大きく姿を変え、それが事故につながる可能性があります。

海上保安庁の平成 21 年から平成 30 年までの 10 年間の事故情報によると、子どもの海での遊泳中の事故者数（溺水、漂流による帰還不能など）は累計 583 人に上り、平成 30 年中は 70 人（前年比+18 人）で過去 10 年間で最も多くなりました。

子どもが海で使用する遊具には、浮き輪やフロートなどがありますが、フロートは、風による影響を特に強く受ける遊具です。海上保安庁によると、平成 30 年中の事故の中には、フロートに乗った子どもが陸からの風により沖に向かって流された事例が複数見られ、中には、4 歳児が溺れて中等症<sup>3</sup>になった事故も発生しました。フロートに乗って、一度、子どもが流されてしまうと自力で帰還することは難しく、すぐに発見されなければ死に至ることも考えられ、大変危険です。

海で楽しくフロートで遊ぶために、主に以下のことに注意しましょう。

### 事故を防止するためのアドバイス

- (1) フロートの対象年齢を確認しましょう。
- (2) 保護者はフロートに乗った子どもから目を離さない、手を離さないようにしましょう。
- (3) ライフジャケットを正しく着用させましょう。
- (4) 遊泳可能な海水浴場で使用しましょう。
- (5) 風の強い日は使用を控えましょう。
- (6) フロートの上で立ったり座ったりするときは慎重にさせ、取っ手がある場合は、しっかりつかまるように教えましょう。

<sup>1</sup> フロートという言葉が指すものは様々あるが、本資料では、「水上で用いることを目的とする空気入れビニール製品の乗り物（ボート、サーフ（板状のもの）及び浮き輪を除く。）」をフロートという（図 1）。

<sup>2</sup> 本資料中では、14 歳以下を指す。

<sup>3</sup> 中等症とは、生命の危険はないが入院を要するもの（目安として 3 週間未満）。



図 1. フロートのイメージ

## 4. 事故を防止するためのアドバイス

事事故例のような、海水浴中のフロートによる子どもの事故を防ぐための注意のポイントをまとめました。

### (1) フロートの対象年齢を確認しましょう。

多くのフロートには対象年齢が定められています。遊ぶ子どもとフロートの対象年齢が合っているか、確認しましょう。フロートのサイズが子どもに対して大きすぎると、乗ったときに水面に脚が付かないため、水を漕ぐことができず、自力で岸に戻ることが難しくなります。

また、フロートが立体的で風を受ける面積が大きいほど風の影響を受けやすくなります。

### (2) 保護者は遊具に乗った子どもから目を離さない、手を離さないようにしましょう。

保護者は常に子どもから目を離さないようにしましょう。

また、水に浮いているものは思った以上に風の影響を受けやすいため、子どもが乗ったフロートから手を離さないようにしましょう。

### (3) ライフジャケットを正しく着用させましょう。

フロートの転覆による落水などの事故に備えて、海水浴でフロートを使用する場合は、子どもの体格に合ったライフジャケットを正しく着用させましょう。

### (4) 遊泳可能な海水浴場で使用しましょう。

事故の約半数は、遊泳可能な海水浴場以外で起きています。

監視員やライフセーバーが常にいる海水浴場などの管理された場所で使用しましょう。管理された海水浴場でも、天候不良などにより遊泳禁止になっている場合は遊ぶことはできません。

### (5) 風の強い日は使用を控えましょう。

海岸で吹く風には、オフショア（陸風）とオンショア（海風）の2つがあります。オフショアは陸から海へ、オンショアは海から陸へ吹く風のことです。昼間はオンショアになることが多いですが、気圧配置や地形によってはオフショアとなる場合もあります。オフショアが強いと、フロートが沖へ沖へと流され、岸に戻れなくなるので十分に気を付ける必要があります。

### (6) 立ったり座ったりするときは慎重にさせ、取っ手がある場合は、しっかりとつかまるように教えましょう。

事事故例では、フロート上で立ち上がった際にバランスを崩して落水したものがありません。フロートでは、各フロートの形状に応じた安定した乗り方で遊ばせましょう。

参考：ウォーターセイフティガイド「遊泳に関する情報」（海上保安庁）

[https://www6.kaiho.mlit.go.jp/info/marinesafety/00\\_totalsafety/06\\_swimming/00\\_swimming.html](https://www6.kaiho.mlit.go.jp/info/marinesafety/00_totalsafety/06_swimming/00_swimming.html)

## <参考>その他の海・川・プールなどで遊ぶときのアドバイス

### (1) 屋外の水辺の場面別注意ポイント

#### ①海水浴など、海での注意

- 1) 天候の変化に注意し、悪天候のときには海に出ないようにしましょう。
- 2) 釣りをするときやボートに乗るときなどは、ライフジャケットを正しく着用しましょう。
- 3) 危険な場所がないか確認し、危険な場所で子どもを遊ばせないようにしましょう。
- 4) 子どもだけで遊ばせず、必ず大人が付き添って、子どもから目を離さないようにしましょう。
- 5) 監視員が常駐する海水浴場で泳ぎましょう。
- 6) 離岸流（沖へ流れる海水の強い流れ）に気を付けましょう。



#### ②川での注意

- 1) 天候の変化や川の状況を川に行く前からチェックしましょう。
- 2) ライフジャケットを正しく着用しましょう。
- 3) 川には流れがあったり、急に深くなる所や滑りやすい所があるので、表面は穏やかでも水中には注意しましょう。
- 4) 急な増水で水没するおそれがあります。河原や中洲、川幅の狭い所に注意しましょう。
- 5) 子どもだけで遊ばせず、必ず大人が付き添って、子どもから目を離さないようにしましょう。



#### ③湖沼池、用水路等での注意

- 1) 湖沼池や用水路の周囲に柵がないなど、転落するおそれがある危険な場所がないか確認しましょう。
- 2) 立入禁止の場所などで子どもが遊ばないように注意しましょう。

#### ④プールでの注意

- 1) 必ず大人が付き添い、子どもから目を離さないようにしましょう。
- 2) 学校等の教育施設や公共施設内などにあるプールでは、監視員や施設の職員等の指示に従いましょう。
- 3) 滑りやすいプール周辺では走らず、危険な飛び込みもやめましょう。

## (2) 万一、事故に遭ってしまったら

衣服を着たまま、海などの水中で溺れたり、漂流してしまったときの対処法合言葉は、「浮いて待て！」

無理に泳いで体力を消耗させることなく、救助されるまでの間、仰向けで力を抜いて大の字になって漂流することが、対処法として有効です。

「浮いて待て！」を実行し、救助された事例が報告されています。



### 【救助事例】

子ども4人でビーチで磯遊びをしていたところ、1人が深みにはまり流されてしまった。

しかし流された子どもは、救助されるまでの間、テレビ番組で見た、流された場合の姿勢（仰向けで力を抜いて大の字になる。）をとって漂流。友人が近くにいた大人に救助を求め、同人が消防に通報。その後、ビーチ救難所の水上オートバイにより救助された。

（海上保安庁 事故発生：平成29年3月、12歳）

## (3) 周囲が事故に気付くために

### 子どもは静かに溺れる

子どもが溺れる場合、子ども自身が溺れていく状況を判断できず、声を出したり、必死にもがいたりせず、静かに溺れていく場合もあると言われています。周囲の人はこういった知識を持って一刻も早く事故に気付くようにしましょう。

## (4) 事故に遭わないために

### ライフジャケットを活用しましょう

釣りやボートへの乗船、川遊びをするときに、浮力があり水面で呼吸が可能になるライフジャケットを正しく着用することは、事故防止の有効な対応法です。



参考1：「ウォーターセーフティガイド」（海上保安庁）

[https://www6.kaiho.mlit.go.jp/info/marinesafety/00\\_totalsafety.html](https://www6.kaiho.mlit.go.jp/info/marinesafety/00_totalsafety.html)

参考2：「河川水難事故防止！川で安全に楽しく遊ぶために」（国土交通省）

<http://www.mlit.go.jp/river/kankyo/anzen/>

参考3：「学校安全Web」（独立行政法人日本スポーツ振興センター）

<https://www.jpnsport.go.jp/anzen/tabid/102/Default.aspx>

参考4：「子どもの水辺サポートセンター」（公益財団法人河川財団）

<https://www.kasen.or.jp/mizube/tabid107.html>